

ジャウィ文書研究会ニューズレター

第3号 2002年6月22日

発行者：ジャウィ文書研究会事務局

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

電話 03-3238-3697 Fax 03-3238-3690

上智大学アジア文化研究所 川島緑研究室

e-mail: midori-k@sophia.ac.jp

目次

- I. 研究会予定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 1
- II. コンピューターでジャウィを書く・・・・・・・・・・新井和広・・・・・・・・ p. 2
- III. 研究会記録
 - 第10回研究会(2002.5.18)・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 13
- IV. ジャウィ文献カタログの紹介・・・・・・・・・・西尾寛治・・・・・・・・ p. 16

I. 研究会予定

6月22日(土) 上智大学

7月13日(土) 上智大学

午前中は初心者向け勉強会「ジャウィ入門」(第2回、第3回)を行い、午後は、ジャウィ文書に関する研究報告や中級者対象の講読会を行います。詳細は追ってご連絡いたします。これまで本研究会のご連絡を受け取っていない方で、今後、案内を希望される方は事務局にその旨、ご一報ください。

II. コンピューターでジャウィを書く

新井和広

ジャウィとは、東南アジアのオーストロネシア語族諸言語のアラビア文字表記をさす。現在ジャウィを目にするのは主に過去に書かれた文書中や、東南アジアの都市の古い商店の看板の中であり、現在では以前ほど盛んに使用されているわけではない。しかし、マレーシアでは未だに新聞・雑誌などにジャウィ表記が使われている。というよりも、ジャウィを復興させる活動もある。とすると、当然のことながら、文書資産のデジタル化、書籍・資料のデータベース構築などと併せ、ジャウィをコンピュータ上で書くことが必要となる。ジャウィはアラビア文字で表記されているため、コンピュータ上で扱うためには特別なフォントをインストールしなければならないが、現在ではマッキントッシュ、ウインドウズ双方でアラビア文字を扱うことができるようになっている。このため、コンピュータ上でのジャウィ表記も容易であると考えがちであるが、実際にはある程度の困難を伴うことになる。以下、コンピュータでアラビ

ア文字(ジャウィ固有の文字も含む)を書く方法を説明し、更にジャウィ研究会で購入したジャウィ用ソフト (Jawi Writer) を使用してみた結果を報告したい。なお、本稿ではジャウィのなかでも特に、ジャウィで表記されたマレー語についてのみ解説する。

アラビア文字とジャウィの文字

はじめに、ジャウィで使用する文字についてもう一度確認しておきたい。ジャウィはアラビア文字で表記された東南アジア諸語である。アラビア語では一般に、次の 29 文字が使われる。

(左から右の順) ا ب ت ث ج ح خ د ذ ر ز س ش ص ض ط ظ ع غ ف ق ك ل م ن ه و ي ء
ペルシア語では更に پ چ ژ گ の 4 文字が加わる。ジャウィで表記されたマレー語では、アラビア語で使用される 29 文字に加えて و ث ك ف غ چ の 6 文字を使用する (また、Al-Munir に出てくる ك などの文字もある)。

Windows2000、Windows XP でジャウィを書く

従来では多言語処理ではマッキントッシュの方が優位であったが、Windows 2000 になってからはアラビア文字をはじめとして世界各地の文字が Windows でも扱えるようになった。しかし、肝心のアプリケーション・ソフトに関しては、MS Word くらいしかアラビア語の入力・編集に対応していなかった。Microsoft Office XP になってからは、Wordに加えて Excel、Access でもアラビア語の表示・入力・編集ができるようになり、非常に便利になった。対するマッキントッシュは、Nisus Writer 以外のワープロソフトでアラビア語を(タイプすることはできても)編集することができず、表計算、データベースソフトでも筆者が知る限り、アラビア語が使えるものがない。また最新の Mac OS X では多言語対応をうたっているにもかかわらず、未だにアラビア語には対応していない。このため、現時点ではアラビア語に関する限り、ウインドウズの方が優位となっている。(余談であるが、筆者もマッキントッシュからウインドウズに乗り換えた。)

アラビア文字を扱うための設定

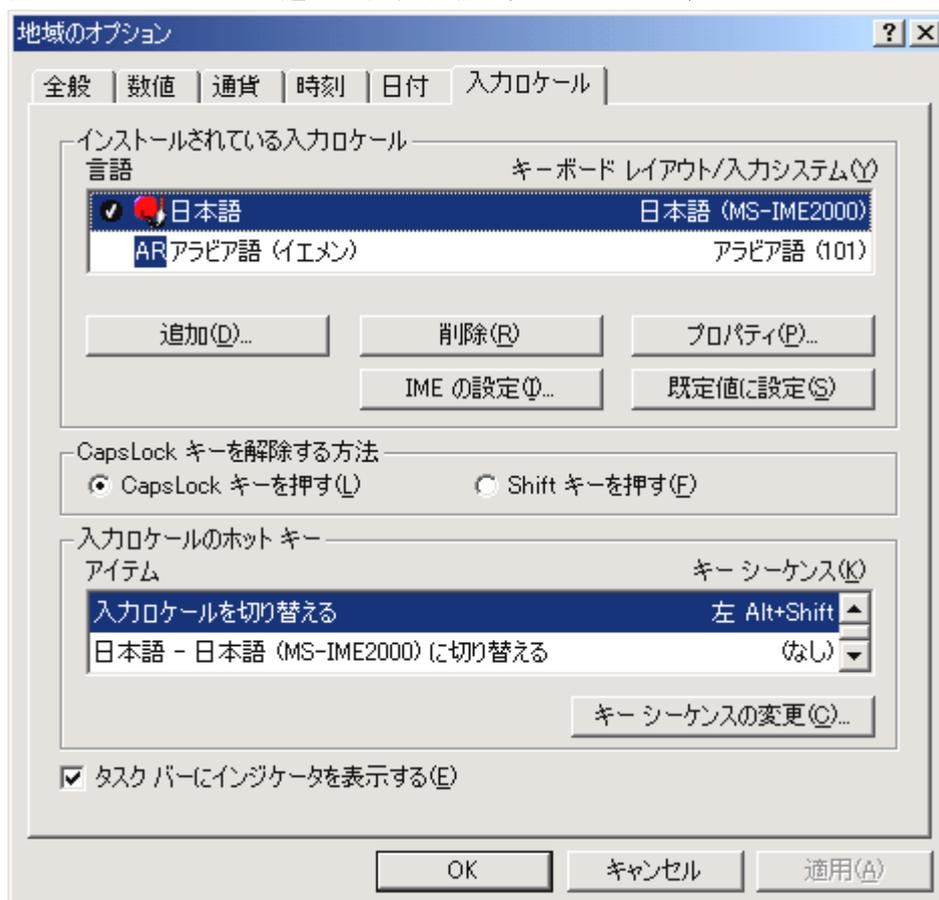
ウインドウズ 2000 以降の OS では、アラビア文字のフォントが標準で付属している。以下、どのようにフォントのインストールを行うのかを簡単に説明する。

Windows 2000

スタート>設定>コントロールパネル>地域のオプションと選択して開き、全般>システムの言語設定の部分でアラビア語をチェックして OK をクリックする。すると、Windows 2000 の CD-ROM を入れるように促されるのでそれに従う。そうするとアラビア語フォントがハードディスクにインストールされる。次に、もう一度スタート>設定>コントロールパネル>地域のオプションと選択して開き、今度は入力ロケールを選択し、インストールされている入力ロケールの部分の「追加」をクリックする。そしてアラビア語 (さまざまな国が並んでいるが、基本的にどこの国を選んでも大差ない。筆者はイエメンを選んだ) を選択して OK をクリックする。そうすると、画面の右

下のタスクバーに日本語(日の丸と筆)、アラビア語(濃い青の四角に白抜きでARの文字)など、現在の入力ローケルを示すアイコンが現れる。それをクリックすることにより、日本語、アラビア語の入力ローケルを切り替えることができる。なお、Windows 2000では、ペルシア語、ウルドゥー語など、アラビア文字を使用する他の言語の入力ローケルはサポートしていないようである。

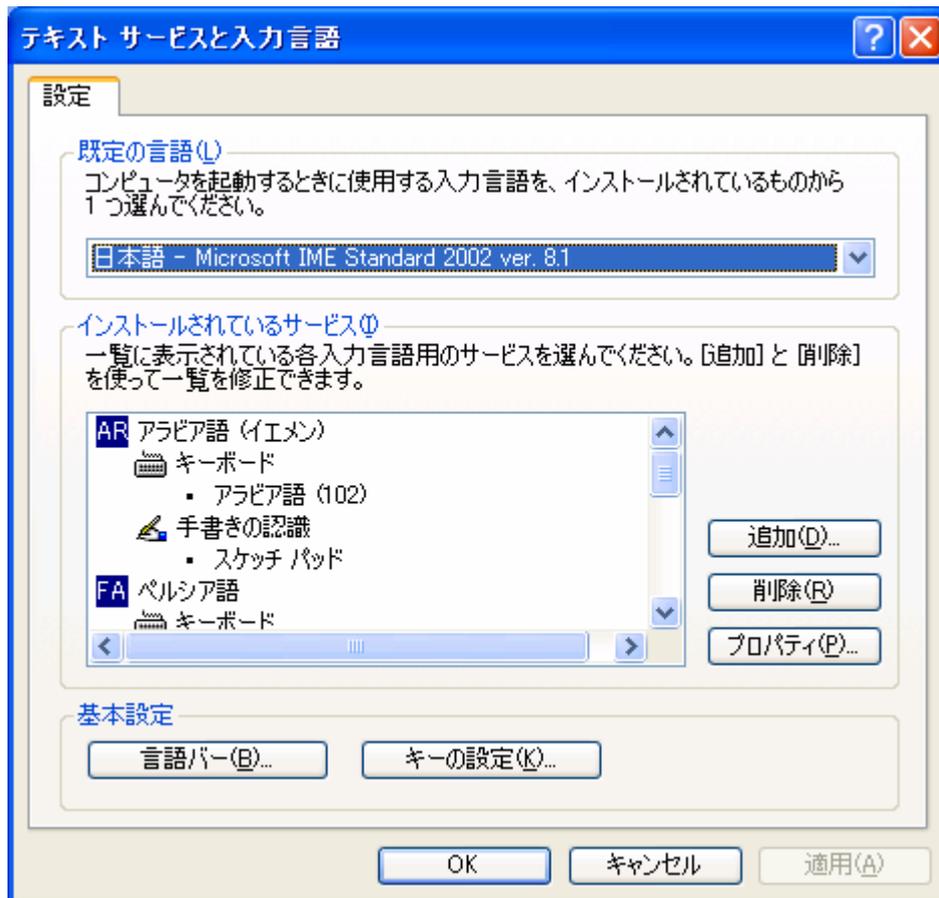
図1. 入力ローケル追加・削除画面 (Windows 2000)



Windows XP

スタート>コントロールパネル>地域と言語のオプション>言語 と選択して開き、「複合文字や右から左方向に書く言語のファイルをインストールする」をチェックする。そしてOKを押すとアラビア文字その他のフォントがインストールされる。その後、先ほどと同様に スタート>コントロールパネル>地域と言語のオプション>言語 と選択して開き、今度は「詳細」をクリックする。すると開いたウインドウの真中に「インストールされているサービス」という項目があるので、そこの「追加」をクリックし、アラビア語またはペルシア語を選択する(これら二つの言語のキーボード配置のどちらがジャウィ表記に適しているかは下で少し説明する)。そしてOKをクリックするとWindows 2000の場合と同様に、画面の右下に日本語、アラビア語の入力ローケルを示すアイコンが現れるので、それをクリックして選択することにより、テキストサービス (Windows 2000の「入力ローケル」と同義) を選択できる。

図2. テキストサービス追加・削除画面 (Windows XP)



アラビア文字の入力

以上で、アラビア文字フォントと、アラビア語/ペルシア語の入力ロケール/テキストサービスのインストールが終わり、これらの文字を入力する準備が整った。そこで、実際にアラビア文字を入力してみたい。まず、ソフトであるが、現在標準的に用いられている Microsoft Word を用いて説明する。まず、Word を起動し、画面右下、ツールバー上の入力ロケール/テキストサービスのアイコンをクリックし、アラビア語/ペルシア語を選択する。その後、フォントを選択する。ウインドウズ付属のフォントは以下のとおり。

Andalus (16pt.)	بسم الله الرحمن الرحيم
Arabic Transparent (16pt.)	بسم الله الرحمن الرحيم
Simplified Arabic (16pt.)	بسم الله الرحمن الرحيم
Simplified Arabic Fixed (16pt.)	بسم الله الرحمن الرحيم
Traditional Arabic (16pt.)	بسم الله الرحمن الرحيم

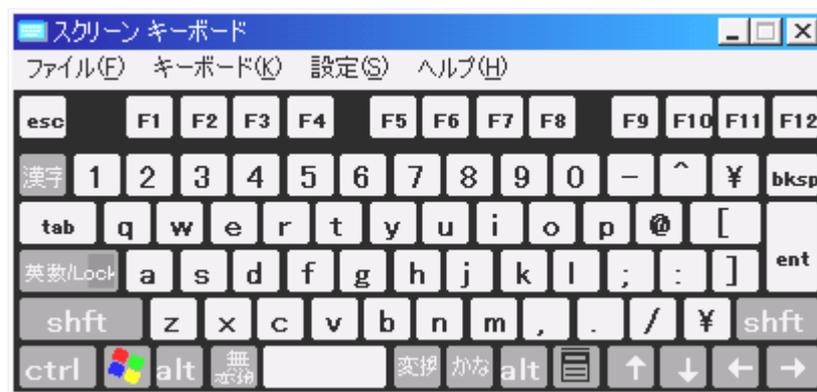
これらのフォントから好みのものを選べばよいのだが、標準的な字体は Arabic

Transparent と Simplified Arabic の二つであろう。アラビア文字のフォントは日本語、ローマ・アルファベットのフォントよりも小さいので、16-20 ポイントくらいの大きさにするのが見やすい。フォントを選択したら、いよいよ入力するわけだが、それには大きく分けて二つの方法がある。スクリーンキーボードを用いる方法と、キーボードを用いて直接入力する方法である。

スクリーンキーボードを使用して入力する

長文を入力するわけではない場合、またはアラビア語/ペルシア語のキーボード配列に慣れていない場合、スクリーンキーボードを使用してアラビア文字を簡単に入力することができる。まず、スタート>(すべての)プログラム>アクセサリ>ユーザー補助>スクリーンキーボードと選択して開く。すると、下のような画面が現れる。

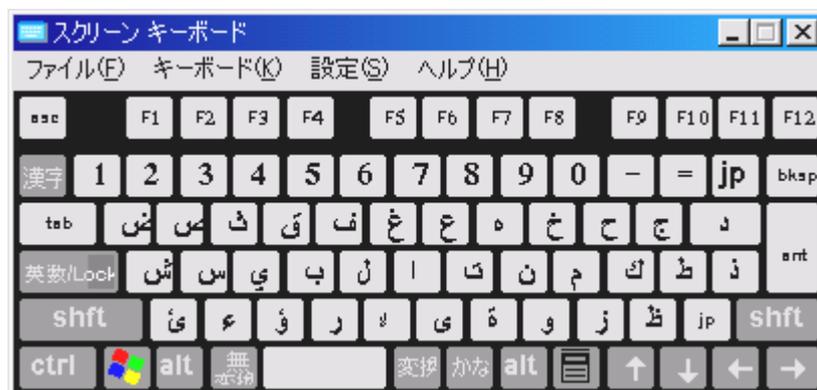
図 3. スクリーンキーボード 日本語



入力ロケール/テキストサービス : 日本語 フォント : MS P ゴシック 12pt. Bold

この画面をマウスでクリックすることで、当該文字を入力できる。それでは、このキーボードをアラビア語に変換してみよう。まず、上の画面で 設定(S)>フォント(F) と選択し、アラビア語のフォント(筆者は Arabic Transparent を選択した)。そして入力ロケール/テキストサービスをアラビア語に変え、スクリーンキーボードの上にマウスのカーソルを移動させると、下記のように変わる。

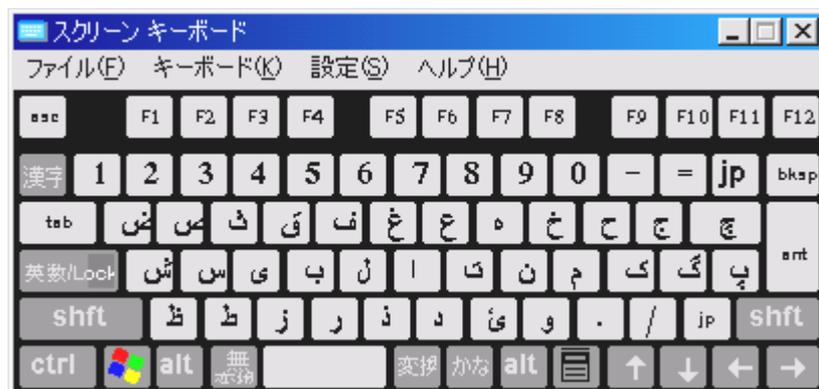
図 4. スクリーンキーボード アラビア語



入力ロケール/テキストサービス : アラビア語 フォント : Arabic Transparent 12pt. Bold

あとは、好きな文字をマウスでクリックして入力するだけである。ちなみにペルシア語では、

図 5. スクリーンキーボード ペルシア語



入力ロケール/テキストサービス：ペルシア語 フォント：Arabic Transparent 12pt. Bold

と、右の方にアラビア語では使用しない گ ج پ が割り振られているのがわかる。どの言語のキーボード配置でも、Shift キーを押せば、Shift+キーで入力できる文字が現れる。

キーボードを使用して入力する

スクリーンキーボードを使用した入力は簡単であるが、長文を入力する場合はやはりキーボード入力の方が断然速い。アラビア語とペルシア語のキーボード配置は図 4、5 のとおりである。筆者は普段から慣れ親しんでいるアラビア語のキーボードを使用しているが、ペルシア語キーボードは、ジャウィで使用する چ などがキーに配置されているので便利である。どちらのキーボードを使用するかは個人の好みで選んでほしい。

ジャウィが入力できるフォント

以上の操作によって、コンピュータでアラビア文字を入力することができるようになった。しかし、これでジャウィが書けるわけではない。ジャウィにはアラビア語・ペルシア語では使用されない文字が含まれているからである。現在、ウインドウズ、マッキントッシュ双方で使用されている Unicode には、ジャウィで使用される全ての文字が含まれている。このため、将来的にはジャウィで使われている全ての文字を網羅し、かつ Unicode にも準拠しているフォントが現れる可能性があるか、または筆者が知らないだけで既に存在しているかもしれないが、ウインドウズ付属のフォントでジャウィ固有文字を含んでいるものは極めて限られている。

現在、Unicode でサポートされているほとんど全ての文字を網羅しているフォントは Arial Unicode MS ただひとつである。ただ、ジャウィで使用される文字が全て含まれているわけではなく、たとえば? (va)などは未対応である (Unicode には含まれてい

る)。また、ن (nya) や غ (nga) は独立形が含まれているだけである。よって、Arial Unicode MS ではジャウィの文書を書くことはできない。

そこでアラビア文字が含まれている各フォントの、ジャウィ固有の文字に対するサポートの状況を表にしてみた。

表 各種フォントのジャウィ文字対応状況

フォント	語尾 の nya	語頭、 語中の nya	pa	nga	ca	ga	ga (2)	va
Stnask ⁵	øf	çš^	Þ»— r	üûù °	Ó«Œ b	à½™ t	—	X, ?
Arial Unicode MS	ث ¹	پپ ²	قف فا فا	غ ¹	چچ چ چ	ك ¹	ك ¹	—
Tahoma	ث ⁴	پپ ²	قف فا فا	غغغ غ ⁴	چچ چ چ	كك ك ك ⁴	كك ك ك ⁴	ف ^{1 4}
Microsoft Sans Serif	ث ⁴	پپ ²	قف ف ⁴	غغغ غ ⁴	چچ چ چ	كك ك ⁴	كك ك ⁴	ف ^{1 4}
Arabic Transparent	—	پپ ²	قف ثا	—	چچ چ چ	كك ك ³	—	—

- 1 独立型のみがサポートされている。
- 2 ペルシア語他で使われているپ (pa) の転用。
- 3 ペルシア語他で使われている文字を一応書いておく。
4. Windows 2000 付属のフォントではサポートされていない文字。
5. Jawi Writer 付属のフォント。

これを見るかぎり、ジャウィ用に開発された Stnask は、現在のジャウィ表記は網羅しているものの、Al-Munir 等、昔のジャウィを引用するときには点が三つある ك (ga) が存在しないなど不都合があることがわかる。Windows XP に含まれている Tahoma、Microsoft Sans Sherif の二つのフォントがジャウィに使用される全ての文字を含んでいることがわかる (Windows 2000 には Microsoft Sans Sherif は付属しておらず、Tahoma も Win2000 バージョンでは、ジャウィ固有文字はほとんどサポートされていない)。しかし、(va) が独立形しかサポートされておらず、語頭、語中の (nya) はペ

ルシア語の (pa) から転用するしかないなど、不都合は残っている。また、ジャウィの入力ロケールがサポートされているわけではなく、実際に入力する時にはアラビア語用の入力ロケールを使用して、ジャウィ固有の文字を入力する場合は、ワープロソフトなどの「特殊文字の入力」コマンドを使用して手作業で入力していく必要がある（または、ジャウィ固有の文字をどこかに並べておいて、コピー&ペーストで入力するという技もある）。実際、手作業でジャウィの入力ロケールとスクリーンキーボードを作成できるというのだが、筆者にその力量はない。もし、どなたかご存知の方がいれば、ご教示いただきたい。

以上のことからわかるように、ウインドウズ上でジャウィを表記することは現時点では「不可能ではない」という段階にとどまっている。ただ、Windows 2000 から XP にバージョンアップされた時に、アラビア語に加えてペルシア語、ウルドゥー語の入力ロケールがサポートされるようになったことから考えて、いつかはジャウィの入力ロケールもサポートされるようになるかもしてない。

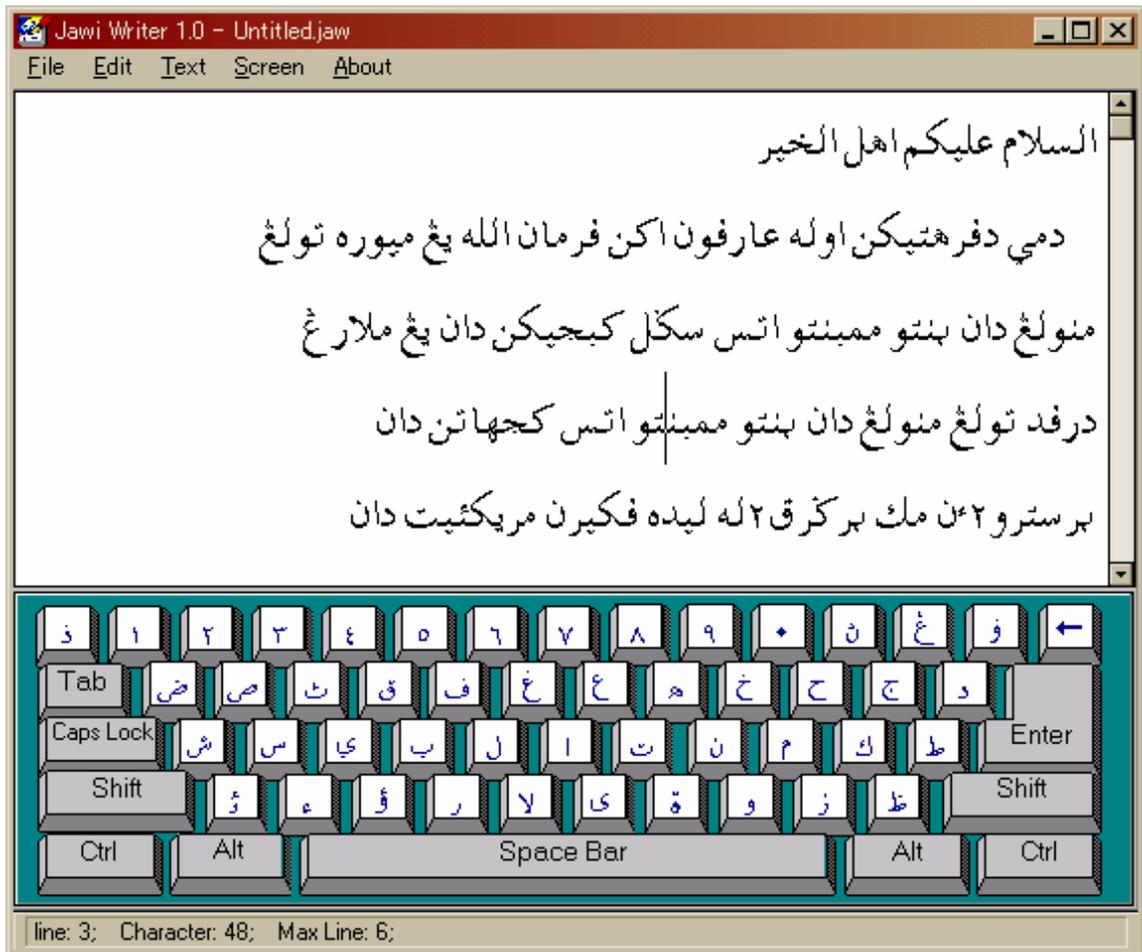
Jawi Writer を使ってジャウィを書く

ジャウィ入力用のソフトを使用すれば、簡単にコンピュータ上でジャウィを書くことができる。今回はマレーシアで発売されている Jawi Writer を使ってジャウィを書いてみることにする。このソフト自体がジャウィのフォントを含んでいるために、ウインドウズ 2000 以前の OS にインストールしてもジャウィを書くことができる（サポートされているのは Windows 3.1 以降）。Jawi Writer を起動すると、次ページのような画面上でジャウィ文書を編集できる。

入力は、キーボードで直接入力するものの他、文書編集画面の下に表示されているキーボードをマウスでクリックすることでも文字入力ができる。各文字の語頭、語中、語尾形は、前後の文字から判断されて自動的に変換される。各文字のキーボード上の配列は、ウインドウズのアラビア語キーボード配列とほぼ同様である。ジャウィ固有の文字もキーボードに割り振られており、その位置をおぼえることでより高速に入力ができる（ただキーボード入力の場合は、入力ロケールを US にしておく必要がある）。

Jawi Writer のスクリーンで書かれた文章は、コピー&ペーストをすることにより MS Word 等で作られた英語文書に埋め込むことができることになっている。これにより、他の言語とジャウィを同じ文書に混在させることが可能となる。しかし、Windows 2000 + Word 2000 で試したところ、文字化けしてしまうことが分かった (Windows 95 でも同様の現象が起こることが報告されている)。Windows XP+ Word 2002 ではそのようなことは起こらないようである。

図 6.



以下、Jawi Writer で書いた文書の例を載せる。

wÂ¥À§• wZc äÃ"£û• ä™ê ®±... £Á> üñ ã,,Â† ä¾šZ v£œ ãùc
 âÃš®šZ ã¿š®šZ ä¾šZ â±...

慈悲深く、慈愛あまねき神の御名において

このように、Jawi Writer を使用することにより、簡単にジャウィ文書を書くことができるが、問題点もある。まず、日本語とジャウィを同じ文書中に混在させる場合は、Jawi Writer で入力・編集したジャウィ文書をコピー&ペーストで日本語文書に持ってこなくてはならないため、作業が煩雑になることである。一旦日本語文書に挿入されたジャウィをもう一度編集したい場合、その部分をまた Jawi Writer にコピー&ペーストし、編集し直す必要がある。

もっと大きな問題点は、Jawi Writer の中で使われているジャウィ文字に割り振られている文字コードが、Unicode はおろか、従来のアラビア語システムとも全く互換性がない(であろう)ということである。このことは、ジャウィを用いたデータベースを構築する際に障害となるのではないかと考えている。また、Jawi Writer で作った

文書資産にしても、将来的に有効に利用できるかどうか不明である。

しかし、マラヤ大学等の研究機関が行っているジャウィ・デジタル・プロジェクト (Projek Jawi Digital) のホームページでは、Jawi Writer に付属しているジャウィ用フォント、Stnask が無料でダウンロードできるようになっていることから、同プロジェクトの標準フォントが Stnask になっている可能性がある。そうだとすると、ジャウィ資産のデジタル化は Unicode と関係のないコード体系で行われているということになる。これについてはまた改めて調べてみる必要がある。

Jawi 用無料フォント

インターネットでジャウィ関係のホームページを検索していたら、Omniglot というサイトからジャウィ用フォントが無料でダウンロードできることがわかった (アドレスは付録参照)。ここで入手できるフォントは Windows の文字コードと互換性があり、フォントの種類も 20 以上ある。しかし、実際にそのフォントを使って文章を書いてみると、独立形の文字だけが並んでしまうという不都合があることがわかった。例えば、Windows 付属のアラビア語フォントでは、

Simplified Arabic (Arabic Font)

بسم الله الرحمن الرحيم

と、入力した文字に従って自動的に語頭、語中、語尾形に変換されるのに対し、無料ジャウィフォントを使って同じ文章を打ち込むと、

Jawi Tiqani Light (無料 Jawi Font) بسم الله الرحمن الرحيم

と、独立形の文字がずらずらと並んでしまう。残念であるが、この問題が解決されないかぎり、この無料ジャウィ・フォントは実用的でない。もともとこのフォントは Power Publisher というソフトのために開発されたようであり、そのソフト中で使うならきちんと変換されるのかもしれない。他のソフトでもきちんと変換されるようになると非常に有難いのだが、、、

結論

筆者が知る限り、コンピュータ上においてジャウィを書く方法は二つある。ひとつは Jawi Writer に代表されるジャウィ表記用ソフトを購入して書く方法であり、もうひとつは Windows XP 上の Unicode 対応ソフトで Tahoma、Microsoft Sans Serif 等のフォントを使用して書く方法である。現時点では、Jawi Writer を使用して書くのが簡単で印刷したものの見栄えもよいが、独自のコードを割り振ったフォントを使用しているため、このソフトで書かれた文書資産が将来も有効に活用できるのかどうかは不明である。一方、Windows XP 上でジャウィを書くのは、入力に手間もかかり、フォント数が限られているため印刷結果もあまり良くないが、Unicode に準拠したデータ

を残せるという利点がある。現在の OS、アプリケーションが Unicode を採用する傾向にあることを考えれば、Unicode に準拠したフォントを使ってデータを作る方が将来性があるのではないかと考えられる。ただし、Jawi Writer で使われているフォント、Stnask は、ジャウィ・デジタル・プロジェクトの標準フォントとなっている可能性もあるので、今後の動向を見守る必要がある。

現在マレーシアでは、Jawi Pro 1.0 というソフトが販売されている。これは Unicode に準拠したものらしいので、こちらもいずれはテストしてみたい。

付言：本稿に含まれている情報は、筆者の経験、またはインターネット上で収集した情報を基にしているため、まだまだ不完全、または誤っている場合があります。もし有力情報をお持ちの方は、ジャウィ研究会事務局に御一報いただくと助かります。

付録：インターネットでみつけたジャウィ関係のサイト

■Unicode アラビア文字表

<http://www.unicode.org/charts/PDF/U0600.pdf>

ジャウィに使われる文字が全て網羅されているのがわかる。

■Software Trading

No. 4, Jalan Singa 20/D

40300 Shah Alam, Selangor, Malaysia.

Tel: (603) 55410236 Fax: (603) 55424523

E-mail: Shamy@pc.jaring.my

<http://www3.jaring.my/softrade>

※Jawi Writer を出している会社。

■Jawi Pro 1.0

<http://jawipro.epondok.com.my/>

ジャウィによる文書、電子メール、ウェブページ作成ソフト。Unicode に対応しているとのことなので、Jawi Writer より将来性があると思われる。しかしまだ現物を手にしたわけではないのでどのようなソフトかは不明。

■Laser Jawi

<http://www.linguistsoftware.com/ljawi.htm>

Linguist's software 社が販売しているアラビア語・ペルシア語・ジャウィ用フォント。マッキントッシュ用とウインドウズ用があり、各 US\$99.95。

■Omniglot - a guide to writing systems, Malay (Jawi) abjad

<http://www.omniglot.com/writing/malay.htm>

28 種類のジャウィ用フォントがダウンロードできる。

■Jawinet

<http://jawinet.8k.com/>

Pusat Islam、Universiti Malaya、Penjawim の3つの機関が共同で行っているジャウィ・デジタル・プロジェクト (Projek Jawi Digital) についての説明がある。またここではジャウィ用フォント、Stnask が無料でダウンロードできる。

■Asas Menulis Jawi

<http://www.fsktm.um.edu.my/~jawinet/belajarJawi/>

ジャウィについての説明がされている(マレー語)。

■「Jawi 表記マレー語エディタの設計」

<http://www.ipsj.or.jp/members/SIGNotes/Jpn/09/1991/080/article010.html>

■「マレー語ワードプロセッサの設計 人力方式の検討」

<http://www.ipsj.or.jp/members/SIGNotes/Jpn/11/1989/029/article001.html>

情報処理学会ホームページに掲載されている論文の要約。富山大学工学部米田政明氏他の研究者によって設計されたものらしい。論文の本文は会員のみ公開されており、筆者自身も未読。

■Malaysian Language and Culture for Students of Indonesian

<http://www.unimelb.edu.au/HB/1996/Arts/150/150-434.html>

メルボルン大学で開講されている、ジャウィ講読を含んだマレー語コース(学部4年生向け)。

■Reading and Writing Jawi

<http://www.admin.utas.edu.au/HANDBOOKS/ARCHIVE/UTASHBKS99/UNITS/UNITSH/HMN309.html>

タスマニア大学で1999年に開講された(かもしれない)ジャウィのコース。

付録2: インターネット上の、多言語・アラビア語関連のページ

■Office XP Worldwide: 多言語機能を活用する

<http://office.microsoft.com/japan/assistance/2002/articles/oWebOffice2002Worldwide.aspx>

ここでは Visual Keyboard というユーティリティが紹介されている。これを使えばウインドウズでも

■Unitype Global Office

<http://www.unirec.com/> (ホームページ)

<http://www.unirec.com/globaloffice.htm> (ソフトの紹介)

仮想キーボードによって Microsoft Office に世界 100 言語を入力できるソフト。日本語 Windows 98/NT 4.0/2000/XP/対応。「サポートする Microsoft 商品は: Word, Excel, Outlook, PowerPoint 97/2000/XP です。入力画面に 表示される仮想キーボー

ドを見て手元のキーボードを使用して入力操作がとても簡単にアクセント、結合文字、ビジネスレター、プロ翻訳者、言語研究者に十分強力にサポート致します！」とのことである。仮想キーボードは以下のようなものである。

図 7.



しかし、アラビア文字を使用する言語でサポートされているのは **Arabic** (Traditional, Simplified) **Dari** (Traditional, Simplified) **Farsi** (Traditional, Simplified) **Kurdish** (Traditional, Simplified) **Pashto** (Traditional, Simplified) **Persian** (Traditional, Simplified) **Urdu** (Traditional, Simplified) **Uyghur** (Traditional, Simplified) となっており、ジャウイは含まれていない。価格は 35000 円。尚、複数言語対応ワープロ Global Writer という商品も扱っている。

■Windows 2000 でアラビア語を入力する

<http://www.meij.or.jp/internet/arabic.htm>

中東研究者の保坂修司さんのサイト。Windows2000 におけるアラビア語・ペルシア語入力方法、その難点などが詳しくレポートされている。Win2000 になって、簡単に多言語が扱えるようになったことを喜ぶ反面、「いままでの血のにじむような努力はいったい何だったんだ」と自問しているところが、一世代上の研究者の苦勞を感じさせる。

III. 研究会記録

第 10 回研究会

日時：2002 年 5 月 18 日（土）10：30-：20:00

場所：上智大学四ッ谷キャンパス 9 号館 3 階 359 号室 出席者：20 名

（午前の部出席者：11 名）

1. 勉強会「ジャウィ入門」第1回 アラビア文字の基本

東長靖 (京都大学)

ジャウィ文書研究会では、発足以来1年間余りの間に、勉強会や研究会を11回開催し、試行錯誤をまじえながら、ジャウィ表記を基礎から学んだり、ジャウィ表記の法則やその地域的、時間的差異を検討したり、ジャウィ文献の講読を行ってきた。本年度は、ジャウィ文書研究に関心のあるものの、ジャウィを学ぶ機会のなかった研究者を対象として、初心者向け勉強会「ジャウィ入門」を3回シリーズで実施することにした。これはその第1回目である。講師役を除く出席者は10名で、その内訳は、大学院生4名、大学教員4名、その他2名であった。大学院生、教員計8名のうち、東南アジア島嶼部を研究対象とする人は5名、東南アジア大陸部を研究対象とする人は2名、中東は1名であった。これまで等閑視されてきたジャウィ資料の研究への積極的利用に関心を持つ研究者が少しずつふえ、しかも、その中に東南アジア島嶼部以外を専門とする研究者も含まれていることは、東南アジア研究やイスラーム研究の発展にとって大変喜ばしいことである。

講師役の東長靖氏は、昨年の第3回研究会で「アラビア文字とその伝播」という報告を行った（要旨はニューズレター第1号に収録）が、本年度は、アラビア文字にまったく触れたことのない人が文字の段階でつまづいて挫折することがないように、文字の基本の説明と練習にじゅうぶんな時間をとることにし、昨年の報告内容を2回に分けて行うことにした。その1回目にあたる今回は、アラビア文字の読み書きの基本と、ある文字体系で別の言語を表記するときに生じる問題点やそれを解決するための工夫について説明が行われた。出席者全員が黒板にアラビア文字を書き、講師に直してもらい機会もあり、日本語の文をアラビア文字で書き、事前に提出するという宿題も出た。新しい文字を学ぶ楽しさを実感できる勉強会であった。〈川島緑〉

2. The petitions of Maranao leaders seeking the American protection: A preliminary inquiry into political thoughts of the Philippine Muslim Using the "Jawi" materials.

Midori Kawashima (Sophia University)

本報告は、英語圏出身の出席者とのコミュニケーションを図るため、質疑応答も含め英語で行われた。

報告ではまず、マラナオの文字状況についての説明がなされた。マラナオは、ミンダナオ島中部南ラナオ州を中心に居住し、マラナオ語を話す人々である。マラナオ語の表記にはアラビア文字によるものとローマ字によるものがある。フィリピンの一部の研究者はマラナオ語アラビア文字表記を学術用語として「ジャウィ」と呼ぶが、マラナオ社会では一般的にこの呼称は用いられず、単に「アラビア文字」と呼ぶことが多い。アラビア文字で記された詩や物語などの文学作品はKirimと呼ばれ、その他の

ものは Iranon と呼ばれることがある。また 20 世紀にアメリカの公教育政策や、アメリカ人プロテスタント伝道者の識字教育活動によってローマ字が導入された。年配のマラナオの中には、かつては、マラナオ語ローマ字表記を「madrasa 文字」と呼んでいたという人もいる。おそらく、近代的学校で習う文字という意味であろう。

次に背景として、フィリピン独立問題におけるムスリム指導者層の動向について、独立を支持する Filipinista とアメリカ支配の維持を望む Americanista との分極化が起こったことが説明された。Americanista がアメリカ政府に提出した数多くの請願書は、先行研究においては植民地支配維持を望むアメリカ人プランターたちの意図によるものと理解されてきたが、大部分の研究は請願書の英訳しか扱っていない。そこで、オリジナルのジャウィで書かれたマラナオ語請願書を分析することによって、ムスリム指導者たちの政治思想を明らかにすることが本報告の目的である、とされた。

ついで、筆頭請願者である Hadji Bogabong という人物について若干の描写がなされた後、彼が 1934 年から 1937 年の間に提出した 4 つの請願書について、それぞれのテキスト分析が展開され、アメリカ政府に対する要求の内容、キリスト教徒フィリピン人 (Kristianos) との関係、アメリカ政府との関係、といった要素を取り上げ、これらの問題が請願書の中でどのように扱われているか、各時点での政治的状況と対比させながら比較検討がなされた。その結果、これらの請願書においては、アメリカ支配の継続という要求を正当化するためにイスラームの人々 (bangensa Islam) とキリスト教徒フィリピン人の対立という図式が強調され、とくにキリスト教徒フィリピン人州知事時代に公権力によってムスリム指導者が殺害され、犯人が処罰されなかった事件を根拠として、キリスト教徒フィリピン人の統治が不公正であるとする非難が行われていることが明らかになった。従って、これらの請願書は単にアメリカ人企業家たちの利害に従ったものではなく、アメリカの保護の下に宗教的自治を確保しようとする戦略的意図を持つとともに、要求が容れられなかった場合の武装抵抗を正当化する目的も持っていた、という議論がなされた。

結論部分では、政府に対して請願書を提出するという政治行動が、南部ムスリム社会を含むフィリピン社会で現在に至るまで存在すること、および、Hadji Bogabong の請願書は現在でも有名でありしばしば引用される、という事実が指摘された。さらに、Hadji Bogabong の請願書のなかに「イスラーム的統治を实践する政治共同体」という概念をみることができ、それは、フィリピンにおけるイスラーム・ナショナリズムの起源として位置づけることができるとの主張がなされた。

質疑応答では大きく分けて 3 つの問題が議論された。まず報告者の用いた幾つかの概念についての質問が出された。請願書において要求された宗教的自治とは具体的に何を指すのか、という質問に対しては、請願書はウラマーらの合議の結果であって多様な要求を内包しているが、基本的にはイスラーム法に従って生活する権利のことである、という回答がなされた。法 (hokoman) がどのように運用されているか、という質問に対しては、通常は年長者やウラマーの合議で問題が処理される、と回答された。さらに、イスラーム・ナショナリズムという概念についてもその定義をめぐる議論がなされた。この点に関して報告者は、「ある人間集団が、イスラームをイデオロギーとして用い、その集団の発展と繁栄を目指して展開する運動やそれを支える思想」という

広い意味でイスラーム・ナショナリズムということばを用いていると回答した。

第二に、請願書の形式に関して、請願書の英訳を作成したのは誰か、という質問が出された。これに対しては、不明だがおそらく Hadji Bogabong の近親者の中の英語教育を受けた青年である、と回答された。なぜ請願書がアラビア文字を用いて書かれたのか、という問いかけに対しては、以下の回答がなされた。当時のマラナオ知識人は（１）米国式の英語による公教育を受け入れたグループと、（２）米国植民地政府の公教育を改宗の装置とみなして忌避し、イスラーム教育を受けたグループに分極化しており、ウラマーや村落首長の多くは（２）に属していた。彼らは、英語やローマ字表記を用いることができず、日常的にアラビア文字表記マラナオ語を筆記コミュニケーションの手段としていた。

最後に宗教教育に関して、使用言語の問題や「伝統的」宗教教育の形態についての質問が出された。これに関して報告者は次のように説明した。マラナオではいわゆる伝統的イスラーム塾が存在せず、当時は基本的に、ウラマーとの個人的な師弟関係を結ぶことによってイスラーム教育が行われていた。そこでは、通常、マラナオ語が使用されていたが、ブルネイなどからウラマーが来訪して教えを広めた場合もあり、マレー語で書かれた宗教書も用いられていた。Hadji Bogabong もマレー語が堪能であった。これに対し、出席者から、Hadji Bogabong は、巡礼に行った際に、メッカの東南アジア人巡礼者のコミュニティでマレー語でイスラーム教育を受けた可能性があるという指摘がなされた。〈國谷徹〉

3. ジャウイ・テキスト“Al Munir” 講読

レジュメ作成担当者：菅原由美（東京外国語大学大学院）、西芳実（東京大学大学院）

講読範囲：第1号1ページ最初から2ページ22行目まで。

今回から、いよいよAl Munir誌本文の講読に入った。前回同様、事前に提出された翻字案をレジュメ担当者がまとめて配布し、問題点を中心に議論した。参加者がAl Munirの表記法にある程度慣れてきたため、翻字に関してはそれほど大きい問題はなかった。だが、文章に句読点がほとんどないため、句、節、文の区切り方や、かかり方をつかむことが難しく感じられた。午後7時半をすぎ、集中力も欠けてきたので、後半の翻訳についてはレジュメ作成担当者の作成したものを読み上げてもらい、その検討は次回にまわすことになった。〈川島緑〉

IV. ジャウイ文献カタログの紹介： マラヤ大学、マレーシア

国立図書館刊行カタログを中心に

西尾寛治

はじめに

近世の東南アジア島嶼部では、マレー（ムラユ）語が有力な共通語として認識されていた。マレー語の表記法には、ローマ字を用いるルミ（Rumi）とアラビア文字を応用した表記法のジャウイがあるが、これらの表記法はいずれも近世に考案されたものであった。そのうち、ルミはヨーロッパ人によって考案され、彼らがキリスト教布教のための教本などの作成に使用した。他方、ジャウイは、在地のムスリム（西アジアや南アジア系移民も含む）の間で広く用いられた表記法であった。近世から20世紀初頭までに記されたマレー語文献の大半を占めたのは、むろんジャウイ表記の文献であった。これには、王統譜、歴史叙述、外交書簡、法慣習やイスラーム諸学関係の文献などが含まれる。

本報告では、こうした20世紀初頭までに記されたジャウイ文献に関するカタログを紹介する。特に焦点を当てるのは、マレーシアのマラヤ大学図書館とマレーシア国立図書館で刊行されたカタログである。

1. マラヤ大学図書館刊行カタログ

マラヤ大学図書館刊行の文献カタログの中で注目されるのは以下の4点である。

A: *Katalog Koleksi Melayu Perpustakaan Universiti Malaya, Catalogue of the Malay*

Collection University of Malaya Library. 1980. Kuala Lumpur: Perpustakaan Universiti Malaya.

B: Koo, Kay Kim. 1984.

Majalah Dan Akhbar Melayu sebagai Sumber Sejarah, Malay Papers and Periodicals as Historical Sources. Kuala Lumpur: Perpustakaan Universiti Malaya.

C: Zainab Awang Ngah. 1990.

Perkamusan Melayu/Indonesia, Satu Bibliografi, Malay/Indonesian Dictionaries, A Bibliography. Kuala Lumpur: Perpustakaan Universiti Malaya.

D: Proudfoot, I. 1993.

Early Malay Printed Books: A Provisional Account of Materials Published in the Singapore-Malaysia Area up to 1920, Noting holdings in Major Public Collections. Academy of Malay Studies and the Library of University of Malaya.

以上の内、Aはマラヤ大学図書館所蔵のマレー語文献全般（インドネシア語を含む）に関するカタログである。ジャウイ文献に関わるのは、このカタログAの第1部冒頭

のマニュスクリプトの項目である。これは、マラヤ大学所蔵の「マニュスクリプト」と「マニュスクリプトのマイクロフィルム」に分かれる。「マニュスクリプト」では約 90 の多様なジャウィ文献が、サイズ、ページ数などの簡単な説明を付して紹介されている。他方、「マニュスクリプトのマイクロフィルム」では、ヨーロッパ各地の研究機関所蔵のマニュスクリプトのマイクロフィルム約 450 点を含む約 500 点のマイクロフィルムが紹介されている。ただし、マニュスクリプト自体の内容の詳細は記されていないので、後述するカタログ P などを参照する必要がある。

カタログ B で有用なのは、「独立以前に刊行されたマレー語雑誌のリスト」(pp.35-60) であろう。各雑誌の基本的情報、ジャウィカルミの別の他、所蔵状況などが記されている。

カタログ C は、ジャウィ文献に直接関わるものではないが、近世以降に作成されたマレー語あるいはインドネシア語の辞書の検索に有用である。

D は、オーストラリア国立大学のアジア史センター所長によって記された大著である。これには、1920 年以前に海峽植民地、マレー半島とその近隣地域（バンクーレン、パレンバン、リアウ、サラワク）で出版されたマレー語（ただし、アラビア語や他の東南アジアの言語も若干含む）文献に関する詳細なカタログが含まれている。特に注目されるのは、取り上げているマレー語文献が 1000 点に及ぶこと、また初版だけでなく第 2 版以降の版についてもカバーしていることであろう。

2. マレーシア国立図書館刊行カタログ

マレーシア国立図書館は、1980 年代からマレーシア国内及び国外の研究機関のマレー語文献所蔵状況を調査し、以下の 11 のカタログを刊行している。

E: *Katalog Induk Manuskrip Melayu di Malaysia*. 1993. Kuala Lumpur: Perpustakaan Negara Malaysia

F: *Manuskrip Melayu Koleksi Perpustakaan Negara Malaysia: Satu Katalog Ringkas Tambahan Pertama*. 1990. Kuala Lumpur: Perpustakaan Negara Malaysia.

G: *Manuskrip Melayu Koleksi Perpustakaan Negara Malaysia: Satu Katalog Ringkas Tambahan Ketiga*. 1997. Kuala Lumpur: Perpustakaan Negara Malaysia.

H: *Manuskrip Melayu Mikrofom*. 1989. Kuala Lumpur: Perpustakaan Negara Malaysia.

I: *Manuskrip Melayu Mikrofom Tambahan Pertama*. 1998. Kuala Lumpur: Perpustakaan Negara Malaysia.

J: *Katalog Manuskrip Melayu di Belanda, Catalogue of Malay Manuscripts in the Netherlands*. 1985. Kuala Lumpur: Perpustakaan Negara Malaysia.

K: *Katalog Manuskrip Melayu di Perancis, Catalogue of Malay Manuscripts in France*. 1991. Kuala Lumpur: Perpustakaan Negara Malaysia.

L: *Katalog Manuskrip Melayu di Jerman Barat, Catalogue of Malay Manuscripts in West Germany*. 1992. Kuala Lumpur: Perpustakaan Negara Malaysia.

M: *Katalog Manuskrip Melayu di Library of Congress, U.S.A.* 1993. Kuala Lumpur:

Perpustakaan Negara Malaysia.

N: *Katalog Manuskrip Melayu di Singapura*. 1993. Kuala Lumpur: Perpustakaan Negara Malaysia.

O: *Katalog Manuskrip Melayu di Afrika Selatan*. 1998. Kuala Lumpur: Perpustakaan Negara Malaysia.

以上の内、マレーシア国内の研究機関に関するものは、E, F, G である。E は、先に紹介したマラヤ大学などのマレーシアの研究機関にどのようなマレー語マニユスクリプトが所蔵されているのか検索するのに便利である。扱われているマニユスクリプト数は 2135 にも上る。ただし、マニユスクリプトについては、サイズやページ数などが記されているだけで、その内容の詳細には言及していない。

カタログ F, G は、マレーシア国立図書館のマレー語文献資料センター (Pusat Manuskrip Melayu) 所蔵の文献カタログの追加版である。それぞれ 420, 296 のマレー語マニユスクリプトが紹介されているが、そのほとんどがイスラーム関係の文献、すなわちキターブ・ジャウイである。

H は、マレーシア国立図書館のマレー語文献資料センターが所蔵しているマレー語マニユスクリプトのマイクロフィルムのカタログ、I はその追加版である。H 及び I では、それぞれのマイクロフィルムに関して、マレーシア国外のオリジナルのマニユスクリプトの所在地が明記されている。ただし、マニユスクリプト自体の内容の詳細に関する言及はないので、後述のカタログ P などを参照する必要がある。

カタログ J, K, L, M, N, O は、マレーシア国外のマレー語文献に関する国別のカタログである。海外におけるマレー語文献の所蔵数で重要なのは、まずイギリスとオランダである。だが、下記の P がすでに刊行されているためであろうか、現在までのところ、マレーシア国立図書館はイギリスに関するマレー語文献カタログを作成していない。他方、オランダに関するカタログは刊行されている (J)。だが、多くの文献を載せることを最優先したからであろうか、各文献には必要最小限の情報しか記されていない。対照的にマニユスクリプトの内容に至るまで詳細な紹介が付されているのは、フランス、ドイツ (西ドイツ)、南アフリカについてのカタログの K, L, O である。

3. その他のカタログ

以上の他、ジャウイ文献に関連した重要なカタログとして下記のようなものがある。

P: Ricklefs, M. C. and Voorhoeve, P. 1977.

Indonesian Manuscripts in Great Britain: A Catalogue of Manuscripts in Indonesian Languages in British Public Collections. Oxford: Oxford University Press.

Q: Roff, W.R. 1972.

Bibliography of Malay and Arabic Periodicals Published in the Straits Settlements and Peninsular Malay States 1876-1941, with Annotated Union List of Holdings in

Malaysia, Singapore and the United Kingdom. London: Oxford University Press.

カタログ P は、タイトルには「インドネシアの諸言語」とあるが、実際にはそれよりももっと広くフィリピンの諸言語やチャム語、モーケン語などで記されたマニユスクリプトをもカバーしている。もう一つの特徴は、簡潔なものながらマニユスクリプトの内容に関する紹介が付されている点であろう。イギリスの研究機関所蔵のジャウイ及びその関連文献の検索には、ひじょうに有用なカタログである。

カタログ Q は、上記のカタログ B と相補いあうものといえよう。

おわりに

以上、マレーシアのマラヤ大学図書館とマレーシア国立図書館で刊行されたカタログを中心にジャウイ文献関連のカタログについて紹介した。むろん今回紹介したカタログですべてのジャウイ文献へのアクセスが可能というわけではない。例えば、村落レベルの行政文書や 20 世紀初期以降の文献へのアクセスには、文書館のカタログなどの他のカタログが必要となろう。しかし、近世あるいは近代の歴史やイスラーム関係の研究などに必要なジャウイ文献へのアクセスには、かなり有用であると思われる。

(本稿は 2002 年 1 月 20 日に上智大学で行われた第 7 回ジャウイ文書研究会での報告の要約である。)

このニューズレターはジャウイ文書研究会の記録、および、ジャウイ文書研究に役立つ情報提供を目的としており、研究会出席者に会場で配布しています。研究会に出席できない方でこのニューズレターの入手を希望される方は、希望する号を明記し、あて先を記入し、160 円切手を貼った A-4 サイズ返信用封筒を同封の上、お申し込みいただければ、郵送いたします。なお、研究工具や資料、文献の紹介、研究報告など、投稿を希望される方は、事務局にご連絡ください。

ジャウイ文書研究会ニューズレター 第 3 号

(2002 年 6 月 21 日印刷)

2002 年 6 月 22 日発行

上智大学アジア文化研究所 川島緑研究室

発行者：ジャウイ文書研究会事務局

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1

電話:03-3238-3697 Fax: 03-3238-3690 e-mail: midori-k@sophia.ac.jp